

内 雑貨OEMを拡大

仲

婦人服で自社ブランド

ボタン、雑貨製造卸の仲内（奈良県、仲内まこと社長）は、雑貨のOEM（相手先ブランドによる生産）の拡大、衣料の自社ブランドの立ち上げに力を入れる。

同社はボタンの製造卸として創業。自社工場を中心に樹脂、貝、木など多様な材料に対応する。

アクササリーやバッグなどの雑貨は、約20年前から始め、売上高の70%を占めるまで成長した。

雑貨は国内、海外生産が半分ずつ。97年に設立した香港現地法人を通じて協力工場や出資工場が製造、中国・深圳事務所が品質管理を行う。経済危機前まで持ち帰りが80

%、米国向け輸出が年60万ドルあった。

年明けから衣料品の海外生産移転が急速に進み、当面ボタン事業が縮小するとみて、雑貨を強化する。プラスチックやアクリル樹脂板など材料を常時15色以上ストックし、小ロット多品種、短納期などサービスを向上させる。機能性の高い商品の企画・開発も進める。秋には婦人カジュアル衣料と雑貨の自社ブランドを立ち上げる予定。

経営一体化のため、販売の関連会社のナカウチ（東京）、ピコア（大阪）、アスコット（岐阜）は夏頃に集約し、支店とする。ピコアのカジュアル衣料のOEMは継続する。4年前に買収したニュートロン（東京）は米衣料ブランドのライセンスが主力のため集約しない。単体の08年9月期の売上高は7億5000万円。今期は7億円の見込み。前期のグループ売上高は単純合計で約18億円。